

膵がん患者における当院の診断・治療内容に関する 後方視的検討

市立福知山市民病院 消化器内科では、膵がん患者様における臨床経過に関する後ろ向き調査に関する研究を実施いたします。そのため、過去に当院で上記診断を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただきたいと考えています。実施にあたり市立福知山市民病院倫理委員会の承認を受けています。

・研究の目的

各種がんに対する治療法の進歩に関わらず膵癌はいまだに予後不良な疾患であり、その予後改善のためにも早期かつ正確な診断が必要です。また治療にはCT、MRIなどの画像検査のみならず、超音波内視鏡下吸引穿刺生検や内視鏡的逆行性胆管膵管造影での細胞診、組織診、体表式エコー補助下での生検等による病理学的な診断が必要です。

しかし、膵がんの診断・鑑別は必ずしも容易ではなく、また診断ができていたとしても、治療法が発展しているにも関わらず未だ予後不良です。

本研究では当院で膵がんと診断された患者様の画像的、病理的特徴およびそれに対する各種治療法(無治療経過観察含む)、またそれらの臨床経過を後ろ向きに検討することで、今後の膵がんに対する診断や治療方針の決定の一助となることが期待されます。

・研究の方法

対象となる方について

2006年6月1日から2018年12月31日までの期間に市立福知山市民病院消化器内科にて診断・初回治療を行なった膵がんの患者様が対象となります。

研究期間：市立福知山市民病院倫理委員会承認後～2021年3月31日までの期間

方法

カルテ上の記録を調べ、性別、年齢などの臨床情報、治療経過などを集計し、治療内容が生存期間に及ぼす影響について調べます。

研究に用いる試料・情報について

情報：性別、年齢、身体情報(身長、体重、PSなど)、病歴、治療歴、家族歴、併存疾患、既往歴、嗜好歴、血液検査結果(血算、生化学など)、エコー/CT/MRIなどの画像情報

・個人情報の取り扱いについて

患者さんの血液や画像、測定結果、カルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し、研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、インターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、入室が管理されており、第三者が立ち入ることができません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者(市立福知山市民病院 消化器内科 医師 奥田隆史)の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

・研究組織

市立福知山市民病院 消化器内科 医長 奥田隆史

・お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2020年3月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ただし、同意を取り消した時点で既に研究結果が学会や論文などで公表されている場合など、廃棄することができない場合があります。

連絡先

市立福知山市民病院 消化器内科
職・氏名 医長・奥田隆史

電話:平日 9:00-17:00 0773-22-2101